

目標達成計画

作成日: 令和 6年 2月 26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 (3)	「運営推進会議を開催する事の意義を話し合い、定期的な開催につながることに期待したい」との指摘あり	運営推進会議の定期的な開催を実現する。	新型コロナウイルス感染症予防のため、定期的な運営推進会議の開催ができなかったが、感染予防に留意しながら、より回数を多くして開催を実現していきたい。2か月に1度の開催が難しい場合は書面による報告、協議を行いサービス向上に活かしたい。	3ヶ月
2	26 (10)	「利用者一人ひとりの個別性や本人主体で本人が出来る事をサービス内容に盛り込み、介護計画と介護記録が連携されることを期待したい」との指摘あり	介護計画と介護記録がより良く連動され、利用者様にとって質の高い介護となるような方法を探求する。	介護計画や介護記録についての文献や他施設の方法を参考とて、より良い方式を取り入れる。利用者本人が出来る事を見極め、課題にすることにより短期・長期目標に設定し本人主体の計画を作成する。	3ヶ月
3	33 (12)	「家族の意見や担当者会議での意見をもとに、終末期ケアプランの立案とケアの実践や振り返りの実施に期待したい。また、実践した記録の充実を期待したい」との指摘あり	看取りの実施方式を改善し、適切良好に行い、より充実した記録になるよう工夫していきたい。	入居時から終末期についての考え方などを家族と話し合い、主治医・職員との意見交換を行いケアプランに盛り込み、実践した記録を残していく。看取り後は振り返りを行い、今後活かしていく。	12ヶ月
4		歩行可能な人が転倒・骨折し以前と同じように歩けなくなってしまうことが少なからず発生する。この予防は大事なことである。また、歩行できない車椅子の人も筋力や安定性向上は重要である。	転倒・骨折を防ぐことは、利用者様にとって、とても重要なことであり、転倒を防ぐ方策を色々な方面から追及する。歩行ができない車椅子生活の方も身体の機能向上を図る。	転倒・骨折を防ぐための設備、利用者様の筋力・身体のバランス力・注意力の向上のためのトレーニングや柔軟性・筋力向上のための機器等の利用も含めた身体機能向上を探求する。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNoを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。